

3-14 第 14 分科会「シティズンシップ教育と秋大生の活動と評価」まとめ

担当 望月一枝

分科会テーマ	シティズンシップ教育と秋大生の活動と評価
担当者・メンバー	担当者 望月一枝 メンバー(4名) 板倉稜、笹原美以子、関駿介、佐藤洗寿
活動の概要	シティズンシップ教育について理解をするため、日本ではどのような活動が行われているのかを調べた。私たちの身近にあるシティズンシップ教育と考えられている活動を挙げ訪問調査した。活動を通してシティズンシップを身につけているかに着目しインタビューとアンケートを行った。
活動のプロセス	<p>シティズンシップとは「多様な価値観や文化で構成させる社会において、個人が自己を守り、自己実現を図るとともに、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、社会の意思決定や運営の過程において、個人としての権利と義務を行使し、多様な関係者と積極的（アクティブに）関わろうとする資質」（経済産業省『シティズンシップ教育宣言』2006年）ということである。そもそも自分達がそのような言葉を知らずそれについて理解すべく、最初の分科会で得たシティズンシップ概要を元に、各自が私たちの周りでどのような活動が行われているのかを調べ共有することにした。その中では日本国内の小中高特別支援で行われているシティズンシップ教育や秋大生やほかの大学が協力して行っている活動、地域の活性化を目的とした活動などがあった。これらを共有したうえで、自分達の身近なところでシティズンシップ教育が行われていないかと考え、秋大生について取り上げ調査することにした。</p> <p>取材はインタビューと私達が作成した自己評価アンケートを軸に行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.大学の講義：ジェンダー論の講義 →実際に講義に出向き、調査 2.生協の活動 →生協の櫻田専務にインタビューを行い、生協や学生組織の取り組みについて伺った 3.サークル：ボランティアサークル V-net →ボランティアサークル V-net にインタビューとアンケートを行い、活動内容と活動についての意識調査を行った 4.学部学科の取り組み：地域科学課程生活者科学選修 →生活者科学選修の食生活研究ゼミの取り組みである秋田大学オフィシャルいぶりがっこ製造プロジェクトについて訪問取材をし、インタビューと活動についての意識調査を行った

	<p>5.海外に向けた活動：秋田キャンパスネット</p> <p>秋田大学や国際教養大学など大学の枠を超えて国際協力や地域貢献を行うキャンパスネットのミーティングに出向いて取材と意識調査を行った。</p> <p>これらを PP にまとめて全体会で発表することにした。</p>
<p>まとめ</p>	<p>内閣府が昨年 7 月にまとめた『子ども・若者ビジョン』の中で、シティズンシップ教育の推進が施策の基本的方向として掲げられた。経済産業省が人材育成策の面からシティズンシップ教育宣言を行ったのが 2006 年である。その研究会の委員を務めてきたがそのころから状況が変わった。しかしシティズンシップ、という言葉自体、それほど耳慣れない言葉であり、それを意識しながら生活をしている人はまずいないはずだ。私たちが身近なところで実践されている活動を調査した結果、それらをちゃんと意識した上での活動は社会にとっても重要な意味を持つことがわかった。シティズンシップという視点を掛けたうえで秋大生の活動を見ていると少なからず秋大生はシティズンシップを身につけているように見える。海外においてのシティズンシップ教育は進んでおり、日本にも最近になって導入されるようになりその存在に目を向けられるようになった。これからの学校教育においても無視できない存在になるがそれを実践に移す上での基礎資本となった。</p>